中高生向け起業家講師による出前授業

出前授業実施レポート（南吉成中学校）

【概略】
・仙台市立南吉成中学校2年生を対象に、起業家講師による出前授業を実施。
・講師は、株式会社TOMUSHI（秋田県大館市）代表取締役の石田陽佑さん。
・前半の講話では、子どものころに夢中になったカブトムシを原点に、失敗を乗り越えて廃菌床を活用した資源循環型ビジネスを生み出した歩みを紹介。
・後半は、生徒たちが自分の「好き」を掘り下げるワークショップを通して「夢中になれるもの」を大切にし、まず一歩踏み出すことの大切さを伝えた。



2026年9月29日、仙台市立南吉成中学校において、起業家講師による出前授業を実施しました。今回講師を務めたのは、カブトムシを活用した資源循環型ビジネスを展開する株式会社TOMUSHI（秋田県大館市）代表取締役の石田陽佑さん。幾度もの失敗や回り道を経験しながらも、大好きなカブトムシから現在の事業を生み出すに至った自身の歩みを紹介しました。

今回は講話だけではなく、「自分が好きなこと」を掘り下げるワークショップも行われました。生徒たちにとって、自分の「好き」を仕事にすることを考える時間となりました。

南吉成中学校は仙台市郊外にあり、実践研究協力校として英語プレゼンテーションなどの探究活動にも力を入れている学校です。今回は職場体験の事前学習としての実施ではありましたが、「企業に勤めるだ

けでなく、自ら事業を起こす力も身につけてほしい。起業に関する話を通じて、生徒の将来の選択肢を広げたい」という先生の思いで、起業家による出前授業が実現しました。

自分たちの「好きなこと」や興味関心から、将来の仕事や起業について生徒たちに考えてもらうため、1時間目は石田さんによる講話を聴き、2時間目は生徒自身が自分の「好き」を掘り下げるワークショップを行う2部構成で実施しました。



会場は教室のすぐそばにあるホール。オープンなスペースで生徒たちとの距離も近く、和やかな雰囲気の中、授業が始まりました。

冒頭、石田さんが生徒たちへ「将来やりたいことがある人はいますか?」と問いかけると、半数ほどの生徒が手を挙げました。獣医師や美容師、サウナの熱波師など、さまざまな声が上がり、石田さんは一人ひとりの「将来なりたい職業」を聞いたのち、自身の経験を語りました。

「好き」の原点はカードゲームから

石田さんの「好き」の原点は、ゲームセンターのカードゲーム「ムシキング」です。小学生の頃、祖母にお小遣いをもらってカードを集め、夢中になって遊んでいたそうです。その熱量はやがてゲームの中だけでなく、本物のカブトムシ探しへと広がっていきました。

時が経ち、石田さんは20代前半に双子の兄と東京でIT会社を立ち上げ、最初の起業を果たしますが、明確な目的もないまま事業を始めてしまい、失敗しました。同時期に祖父が体調を崩したことも重なり、故郷の秋田に戻って祖父の家で暮らすことになりました。

失敗を乗り越え生まれた、カブトムシによる資源循環型ビジネス

そんな石田さんが、再び目を向けたのが子どもの頃に好きだったカブトムシでした。珍しいカブトムシを育てて販売するビジネスを思いつき、もう一度兄とともに「株式会社TOMUSHI」を立ち上げ、2度目の起業へと踏み出しました。ただ、ここでも飼育ノウハウの不足や高額な餌代が響き、資金がほとんど底をつくという危機に陥りました。

しかし、この絶体絶命のピンチが大きなブレイクスルーをもたらします。高額な餌代を削るために「捨ててしまうものの中にカブトムシの餌はないか」と考え、きのこ栽培で出る「廃菌床」という廃棄物を食べさせることで、餌代を抑えつつ廃棄物も削減できる、環境に優しい事業を実現しました。さらに、カブトムシの幼虫が排出するフンは高品質な肥料になることがわかり、**「ゴミを減らし、カブトムシを育て、肥料やタンパク源を生み出す」**という持続可能な資源循環の仕組みを構築することに成功しました。



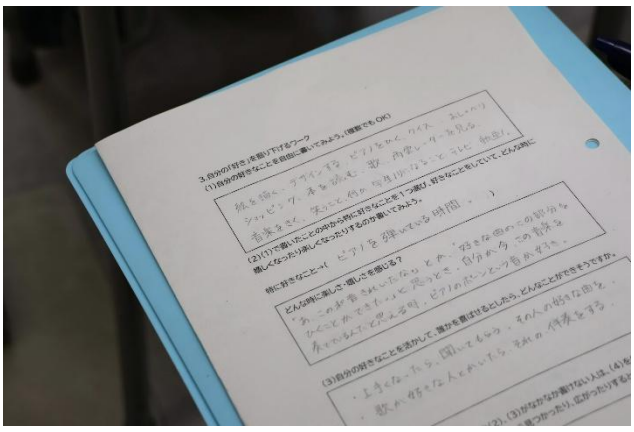
この事業モデルは注目を集め、さまざまなメディアに取り上げられました。現在は全国に100か所以上の拠点ができ、カブトムシを活用した医薬品の研究も行っています。そして石田さんは、その後大館市長となった双子の兄とともに、経済誌「Forbes JAPAN」の「世界を変える30歳未満の30人（30 UNDER 30）」にも選出されました。

石田さんは、何度も挫折や倒産の危機を経験しながらも諦めなかった理由を**「夢中になれるものがあったから」**と説明しました。「たとえば、数学ができない、音楽が苦手など、みなさんにも不得意なことはあると思います。それを無理に克服しようとするよりも、**周りから反対されてもどうしてもやりたくなってしまう『夢中になれるもの』に着目し、それを貫くことが大切**です」と強調しました。

また、好きなことがまだ見つからないという生徒に向けても、「ちょっと面白そうと思ったことをまずやってみる」「好きなことを話すと応援してもらえる」と提案し、「やってみて合わなかったことがわかるのも大きな成果です」と話しました。

自分の「好き」を掘り下げるワークショップ

講話の後、2時間目には生徒たち自身が自分の「好き」と向き合うワークショップに取り組みました。ワークでは、まず自分の好きなことを自由に書き出し、その中から特に好きなものを一つ選択。「それをしていて、どんな時に嬉しくなったり楽しくなったりするのか」を具体的に整理した上で、その「好き」を活かして「誰かを喜ばせるとしたら、どんなことができそうか」まで思考を深めました。



生徒たちは、食べること、スポーツをしたり応援したりすること、音楽を楽しむことなど、自分が好きなことを書き出し、その理由を掘り下げていきました。

石田さんはワークショップ中も生徒たちに声をかけ、気さくに接していました。生徒のワークを見守った石田さんは「私はカブトムシも好きですが、もっと好きなのは、好きなカブトムシを活用したビジネスができて、お金をいただけることです」と話し、**好きなことを分解して掘り下げるポイントを紹介しました。**

参加した生徒からは、「今、好きなことを大切にして、今持っている好きを、いつか世界の役に立てられると良いなと思った」、「受ける前は、起業はとても難しいイメージがあったが、石田さんのお話を聞き、自分の好きが仕事になるのはとても楽しいし、起業のよさを知った」などの感想が寄せられました。

石田さんの講話とワークショップを通じて、生徒たちは自分の「好き」を見つめ直し、それが誰かの役に立ったり、仕事につながったりする可能性に気づきました。小さな興味を大切にし、まず一歩踏み出してみる。その経験が、自分の未来の選択肢を広げることを実感した時間となりました。